

# いちご「とちおとめ」の花芽発育および生育特性調査

## 1. 試験のねらい

促成栽培用として育成されたとちおとめの花芽の発育、生育などの特性を明らかにする。

## 2. 試験方法

平成6年8月20日夜冷処理の作型で、花芽の状態及び葉数を9月12日から1週間ごとに12月12日まで検鏡した。また、展開第3葉の葉柄長並びに小葉の大きさ、開花日、着果数、花房間葉数、展葉間隔及び収量（8g以上の可販果）を調査した。

## 3. 試験結果および考察

- (1) とちおとめの頂花房の花芽分化期は女峰と同じ9月10日頃と推定され、発育経過もほぼ同様であった(図-1)。1次腋花房は両品種とも10月10日頃と推定され、この時の頂花房のステージは出蕾期で、発育は両品種ともほぼ同様な傾向であったが、発育の速さはいずれも頂花房よりやや緩慢であった。2次腋花房の分化期は両品種とも11月上旬頃と推定されたが、とちおとめは女峰より4、5日遅れたものと思われた。
- (2) 葉柄長は12月8日が最も長く(13.1cm)、以後短縮傾向となり3月2日が最も短かく(4.6cm)その後再び伸長した(図-2)。推移は女峰と同様であったが、いずれの時期でもやや短かかった。葉面積は葉柄長の推移と同様な傾向を示したが、各時期とも女峰をわずかに下回り、小葉はやや小さかった。
- (3) 展葉間隔は12月上旬から下旬にかけて急激に長くなり(12月下旬で21.3日/葉)、その後は短縮され、3月下旬に最短(6.8日/葉)となったが、女峰より短い傾向が認められた(図-3)。
- (4) 開花日は頂花房ではほぼ同様であったが、1次及び2次腋花房ではとちおとめが遅れた(表-1)。着花数は、頂花房では女峰の78%、1次腋花房111%、2次腋花房79%であった。花房間葉数はいずれもとちおとめが多く、頂花房~1次腋花房間で2.0枚、1次~2次腋花房間で1.0枚、2次~3次腋花房間で2.3枚多かった。
- (5) 収量は女峰の109%、1果重は107%とやや優れた。旬別収量をみると収穫花房が換わる1月中旬、3月上旬頃にやや少なくなったが、大きな中休みは認められず、女峰とほぼ同様な収穫経過となった(図-4)。
- (6) 以上から、とちおとめの頂花房の花芽分化期は女峰とほぼ同じ9月10日頃と推定され、分化後の発育や開花日は概ね同様であることが明らかとなった。1次及び2次腋花房の分化期は、それぞれ10月10日、11月上旬頃と推定され、開花日はいずれの花房も女峰より遅れる傾向がみられ、これは、花房間葉数が多いためと思われた。生育は女峰に比べて葉柄長や小葉の大きさの推移はほぼ同様であるが、それぞれ女峰よりやや小さく小型化すること、展葉間隔が短いことが特徴であった。

(担当者 栃木分場 石原良行\*・稲葉幸雄)\*現普及教育課

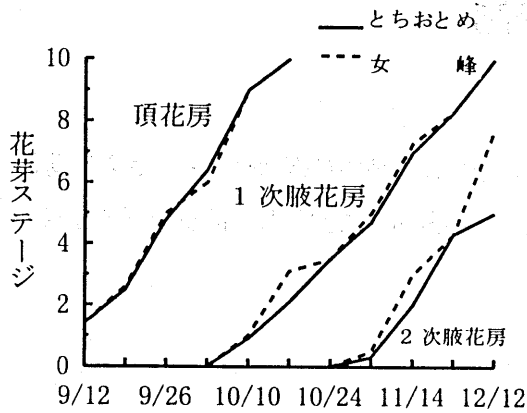


図-1 花芽の発育経過

花芽ステージ 1: 花芽分化期、2: ガク 初生期、  
4: 雄ずい形成始期、6: 雌ずい形成始期  
8: 花器完成期、10: 開花期

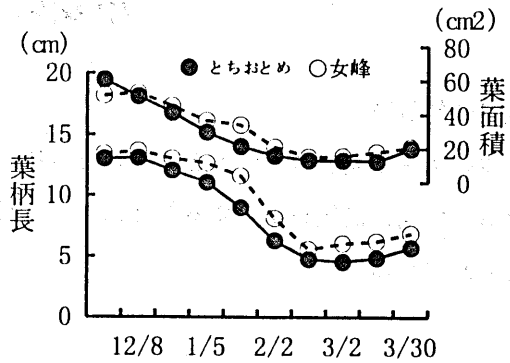


図-2 葉柄長と葉面積の推移（葉面積は展開第3葉の中央の小葉）

表-1 各花房の開花日、着花数、花房間葉数及び収量

品 種	開花日(月・日)			着花数(花/株)			花房間葉数(葉)			収量 1果重	
	頂花房	1次	2次	頂花房	1次	2次	頂~1次	1次~2次	2次~3次	(株/g)	(g)
とちおとめ	10.23	12.11	2.12	19.0	21.0	9.7	5.8	4.4	5.2	609	16.7
女 峰	10.25	12. 3	1.25	24.4	19.0	12.3	3.8	3.4	2.9	561	15.6

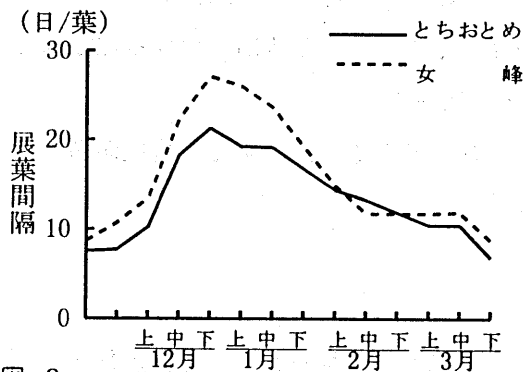


図-3 展葉間隔の推移

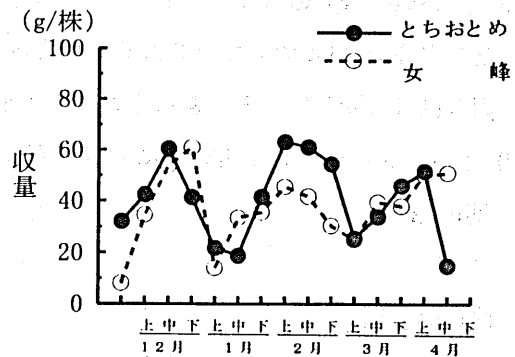


図-4 旬別収量